



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)

12月19日三島市生涯学習センター3階講義室に於いて、『新しい地域支援を考えるフォーラム～住んでいて良かったと思える地域を目指して～』が開催されました。

主催は三島市新しい地域支援を考えるフォーラム実行委員会、三島市・三島市社会福祉協議会。共催；公益財団法人さわやか福祉財団・さわやか静岡、後援；住友生命保険相互会社。

「地域で自分の力を活かす」と題して、公益財団法人さわやか福祉財団会長の堀田力(ほったつとむ)氏が基調講演を行いました(写真左)。三島市民、自治会関係者、民生委員児童委員、NPO・ボランティア関係者、福祉事業関係者、その他地域支援の取り組みに興味のある方が多く集まり、150名定員の会場は満員となり、大変盛況でした。関心の高さを伺い知ることができました。

最初に豊岡武士三島市長より三島市の高齢者施策の状況について紹介がありました(写真右)。三島市の人口が減少傾向にある中、65才以上の高齢化率は上昇し、三島市民の4人に1人以上が“高齢者”に位置付けられる状況と三島市における高齢者の現状(健康寿命とお達者度)を紹介、さらに介護予防に関する取り組みについて紹介。

シニア向け運動教室や体操サポーター養成講座の開催、笑って動いて認知症予防「わははの会」等々積極的に取り組んでいる事や、今回のテーマでもある地域主体の取組として「居場所づくり」について紹介されました。



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)

会場の受付時間の13時を過ぎると、一般市民、自治会関係者、民生委員児童委員、医療事業関係者、福祉事業所関係者、NPO、ボランティア関係者等事前予約した人達が受け付けに訪れ会場の席は次々と埋まっていきました(写真)。



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)

三島市長による三島市の高齢者施策の状況について紹介の後、堀田氏による基調講演が行われました。

まず、市長自らパワーポイントを使って、原稿なしでプレゼンをしたのは初めてです。素晴らしいと誉めた後に「地域で自分の力を活かす」と題してお話をされました。

貧しかった昔は助け合いで頑張ってきた。戦後それが少なくなってきた。自分で稼いで自分で生活する。助けられる人はダメな人。話をする縁側が無くなった。それで本当にいいのですか？

うつ病になる、格差社会になる。幸福度はお金で買えません。プータンがそうですね。お金で買えないものが有る。それは愛情です。愛情を沢山持っている人が幸せです。

人類の最先端を生きるのが高齢者である。働く必要もない、鬼の上司もない自由が有る。若い人が早く年寄りになりたいと思わせ、若い人が憧れる様にすることが年寄りの任務です。介護施設に空き部屋が有る。何故？働く若い人がいない。だから、我々が助け合って生きていく。お金を払ってしてもらっても楽しくない、自分ができないことが悔しい。

人の役に立って「有難う！」と言われる人が元気で長生きする。「有難う！」を沢山持っている人は認知症になりにくい。ボランティアをやっている人の入院期間は半分になると言ったデータも有る。助け合いの大切さや助ける人が健康でいる期間が長くなるとお話をされました(生きがい特派員の私が理解した話された内容の大筋)。

そして、助け合いシステムの生活支援コーディネーター及び協議体の役割として、第1・2層の基盤づくりを紹介(写真は左が堀田氏、右二人が第1・2層コーディネーター)

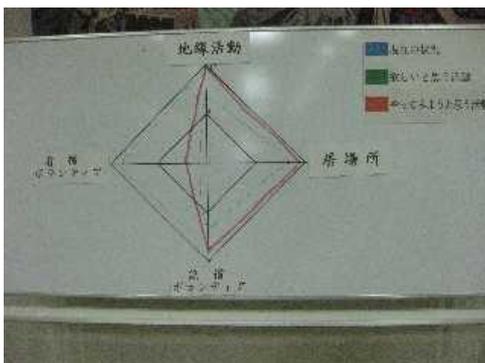


新しい地域支援を考えるフォーラム



新しい地域支援を考えるフォーラム

ホワイトボードを取り出し、堀田氏がアンケートを取り出しました。地域活動をしたいと思っている方はいますか？会場のほとんどの方が手を上げる。居場所づくりに興味のある方は？無償のボランティアに参加しますか？ここまでは殆どの方が手を挙げました。しかし、最後の有償ボランティアに参加しますか？に手を挙げる方は多くありませんでした。



新しい地域支援を考えるフォーラム

アンケートは写真の赤線で示す様な結果でした。



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)

堀田氏の基調講演の後、休憩をはさみ活動報告及びパネルディスカッションが行われました。写真左の右側がフォーラムのコーディネーターを務めた堀田氏。

写真右は左から芙蓉台自治会の山本氏、富澤氏、旭ヶ丘サロンの宮川氏、三島市社会福祉協議会・第2層コーディネーターの野口氏がパネリストとして参加しました。



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)

最初に「芙蓉台自治会高齢者支援の仕組みづくり」を富澤氏が紹介(写真左)。続いて「旭ヶ丘カフェ」・「なかよし体操」活動報告を宮川氏が紹介(写真右)しました。



[新しい地域支援を考えるフォーラム](#)

最後に「住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」と題して野口氏が社協の活動を紹介。そして平成28年度より三島市より生活支援コーディネーター業務を受託し、北上、錦田、中郷、旧市内の担当の4名(含む野口氏)を壇上で紹介しながら活動を紹介します。

パネリストの活動紹介の後、ディスカッションが行われました。堀田氏より三島市の様にネットワークができてきているのは全国的に珍しい、介護保険は高齢者だけを対象にしている、身障者や子供も含まれていないと説明がありました。

パネリストからの一言を紹介します。

芙蓉台自治会の山本氏は「一人では何もできません。できる事をできる時にやりましょう！」

富澤氏は「色々な人との連携することが大事です」

旭ヶ丘カフェの宮川氏は「人と人が交流することで楽しい気持ちになり、幸せな日々が送れます」

コーディネーターの野口氏は「私の顔を覚えて下さい。気軽に電話して下さい。社協がやるのではなく皆さんがやるのです」

最後に堀田氏より、皆で助け合っていく。一人一人ではできないので仕組みを作る。『生活支援コーディネーターは助け合いを作り出す人』と締めくくりました。

予定の2時間半はあっという間に来てしまいました。中身が濃いせいだったのでしょうか？団塊の世代が支える側から支えられる側になる狭間に来ています。団塊世代の私には非常に参考になるフォーラムでした。

た。企画も大変良い内容で勉強になりました。

取材：東部・田方地区生きがい特派員

加藤 孝